

Azure Percept ワークショップ

日本マイクロソフト株式会社



本日の内容

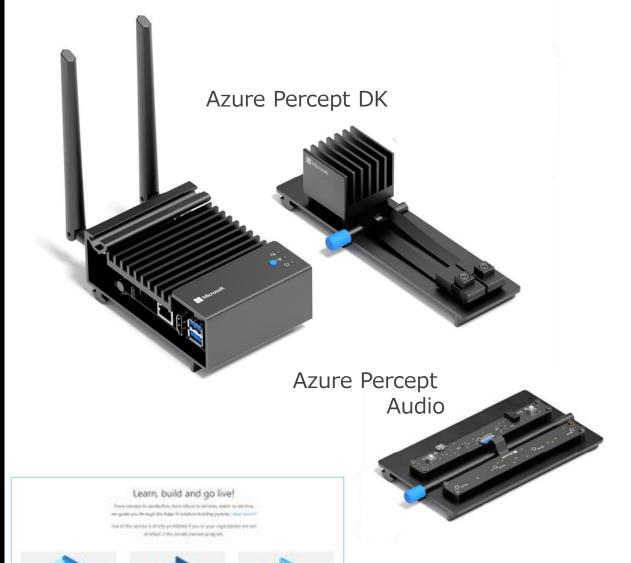
- Azure Percept 概要
- Azure Percept ワークショップ
 - Step1: Percept DK のセットアップ
 - ①サンプルのビジョン AI モデルを試す
 - ②カスタムのビジョン AI モデルを試す
 - (オプション) ③その他のビジョン Al モデルを試す(Open Pose、OCRなど)
 - Step2: Azure 環境のセットアップ
 - Step3: Power BI レポートの作成
 - Step4: Teams アラートの実装

Azure Percept 概要

Azure Percept

Azure の AI および IoT サービスとシームレスに統合された ハードウェア アクセラレータで、概念実証 (PoC) を数分で開始。

- 包括的なエッジ AI プラットフォームで変革
- Azure の AI および IoT サービスと統合されたハードウェア アクセラレータを含む、エンドツーエンドのエッジ AI プラット フォーム。
- **エッジ AI ソリューションをシームレスに構築・管理**エッジ AI ライフサイクル管理サービスと事前構築済み AI モデルを利用して、プロトタイプから数分で実稼働へ。
- マキュリティを考慮した設計
 - マイクロソフトのゼロ トラスト セキュリティ モデルによる ハードウェアの "信頼の基点" を利用して、転送中および保存された機密データを保護。



\$6 security \$6 extraordal tends

Selective excessors

Azure Percept Studio

Azure Percept Dev Kit - Vision + Audio 日本販売開始

x4 MEM mics Linear Array

XMOS XUF208 Security: STM32L462CE 16bit DAC

3x RGB LEDs: USB Micro B

> **Azure Percept** Audio

NXP iMX8m ARM

16GB

TPM 2.0 Nuvoton NCPT750 Security:

Connectivity: WiFi & Bluetooth

Ports:

1x USB C 2x USB A 3.0

Azure Percept Vision VPU: Intel Movidius Myriad X (MA2085)

Azure Percept

Trust Module

LPDDR4 2GB

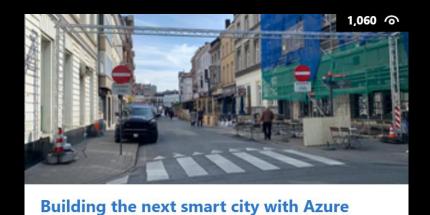
Sony IMX-219 (1.12 um) RGB

STM32L462CE Security: Resolution: 8MP @ 30FPS

USB C & MIPI 4 Lane (up to 1.5 Gbps per lane) Ports:

USB Micro B

Real-World Scenarios...



Percept











Perceptmobile: Azure Percept Obstacle Avoidance LEGO Car



Maintenance

Internet of Things - Microsoft Tech Community

生鮮食品の体積検出



Azure Percept Vision Output

This AI can be trained to recognize any type of fresh produce

- 60% of fresh food spoils and is wasted in retail, representing a \$161.6B/year loss¹
- Video AI can provide the ground truth for analytics containing the purchasing and restocking rates of perishables at retail.
- These purchasing analytics enables a more efficient supply chain, resulting in less CO2 emissions from transportation of fresh food and less fertilizer in the soils.
- This creates a healthier planet.

Al For Good: Percept による 絶滅危惧種 (鳥) カウンター

Bird feeder with integrated Percept Al camera



Percept AI output with Chickadee (Poecile gambeli) detection









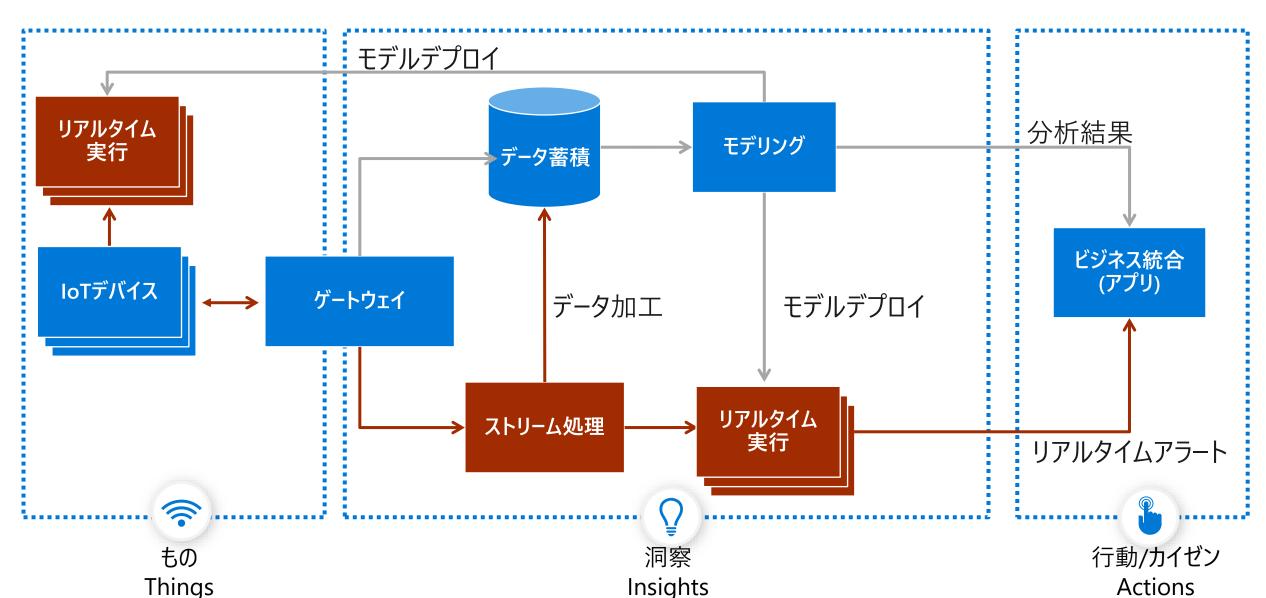




Azure Percept ワークショップ

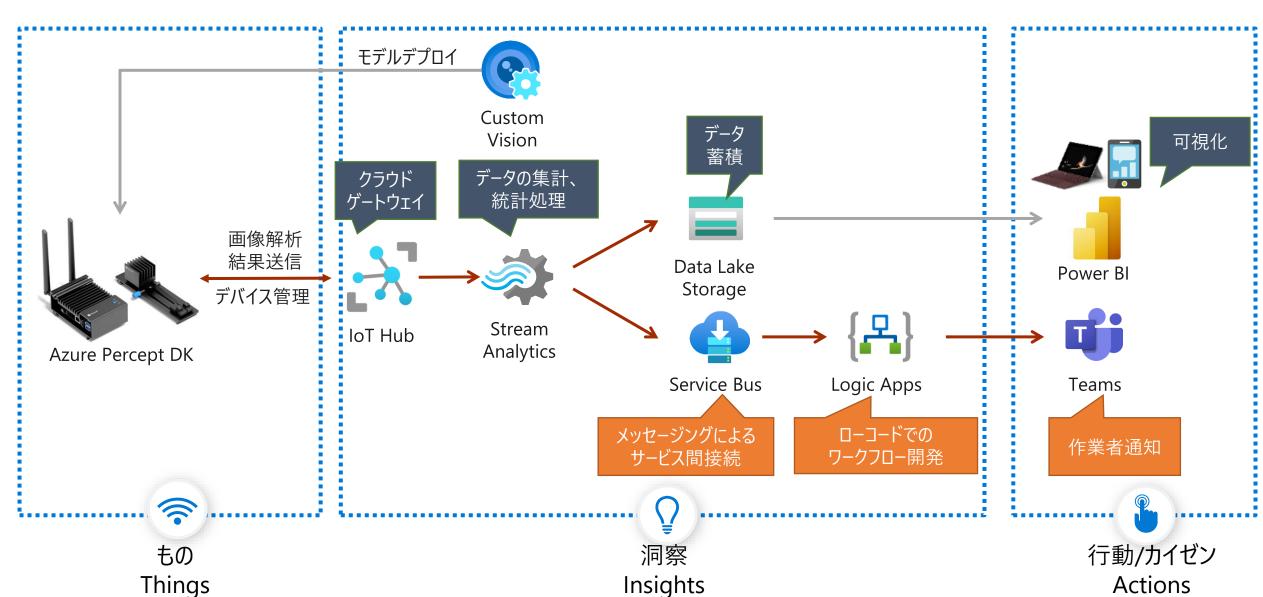
AI + IoTリファレンスアーキテクチャー





ハンズオン構成





Step1: Percept DK のセットアップ

Things



Actions



Insights

Percept DK のセットアップ

- 以下手順に従って、セットアップを実施します
 - Azure Percept DK デバイスを箱から取り出して組み立てる | Microsoft Docs
 - Azure Percept DK デバイスを設定する | Microsoft Docs
- ※はじめて使用する場合、以下手順にしたがって最新のOSとファームウェアの更新を実施することをお勧めします
 - <u>USB-C ケーブル接続で Azure Percept DK を更新する | Microsoft Docs</u>

①サンプルのビジョン AI モデルを試す

- 以下手順に従って、サンプルのビジョン AI モデルをデプロイします
 - Azure Percept DK の RTSP ビデオ ストリームを表示する | Microsoft Docs
 - Azure Percept DK にビジョン AI モデルをデプロイする | Microsoft Docs
- 利用可能なサンプルモデル
 - 人物検出
 - 車両検出
 - 一般的な物体検出
 - 棚の製品検出

①サンプルのビジョン AI モデルを試す

X

Vision モデルのサンプルを試す

すぐにデバイスにデプロイする

すぐに開始するには、使用可能なサンプルのいずれかを選択します。該当のタイルをクリックしてください。

サンプル モデル ①

○ 一般的なオブジェクトの検出

共通オブジェクトを識別します



棚の製品

製品が棚にない場合に製品を識別します



○ 人物検出

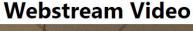
ライブ ストリームで人物を識別しま



車両検出

車両の種類の識別







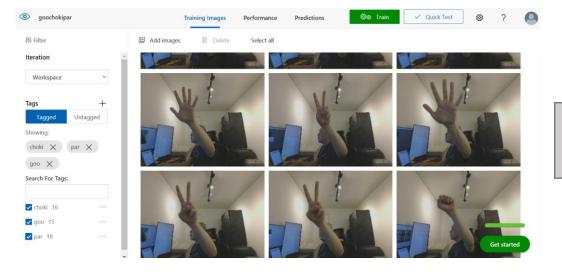


②カスタムのビジョン AI モデルを試す

- 以下手順に従って、カスタムのビジョン AI モデルを作成およびデプロイします
 - Azure Percept Studio でコードなしのビジョン ソリューションを作成する | Microsoft Docs
- Custom Vision による以下モデルが利用可能
 - 分類 (Classification)
 - 物体検出(Object Detection)

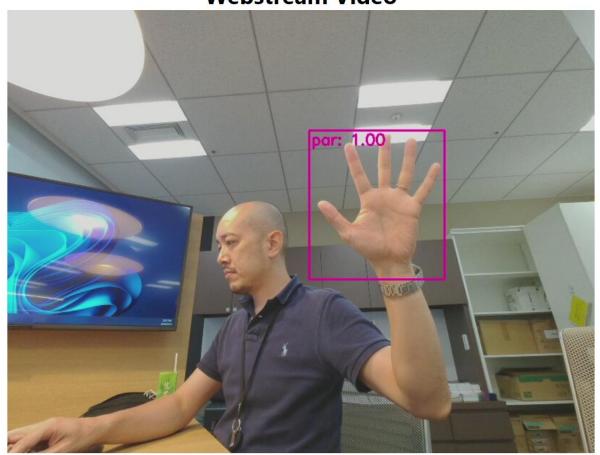
②カスタムのビジョン AI モデルを試す

Custom Vision でカスタム AI モデルを学習



Percept にモデルをデプロイ

Webstream Video



③その他のビジョン AI モデルを試す

- 以下を参考に、Open Pose のモデルをデプロイします
 - Azure Percept を使用した高度な開発 | Microsoft Docs
 - GitHub microsoft/azure-percept-advanced-development: Azure Percept DK advanced topics

Model	Source	License	URL
Open Pose	Intel Open Model Zoo	Apache 2.0	https://aedsamples.blob.core.windows.net/vision/aeddevkitnew/openpose.zip

- 上記 URL を azureeyemodule のモジュールツイン の ModelZipUrl に指定します
 - Azure Portal 上の IoT Hub の画面における [IoT Edge] > [該当デバイスID] > [モジュールを設定する] > [azureeyemodule] > [モジュールツインの設定] より更新

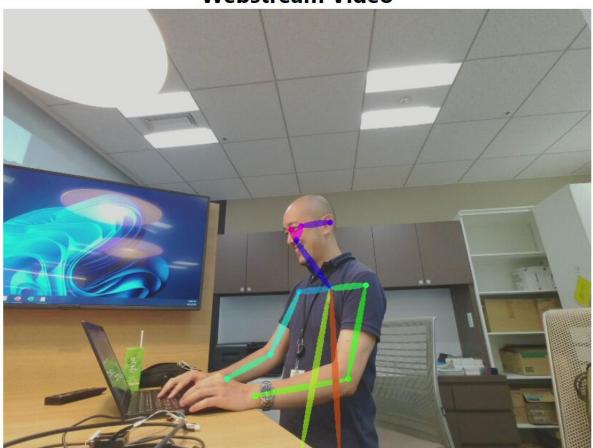


- 利用可能なモデル
 - Faster RCNN ResNet 50
 - Open Pose
 - Optical Character Recognition
 - Person Detection
 - Product Detection
 - SSD General
 - Tiny YOLOv2 General
 - Unet for Semantic Segmentation
 - Vehicle Detection

③その他のビジョン AI モデルを試す

例: Open Pose

Webstream Video



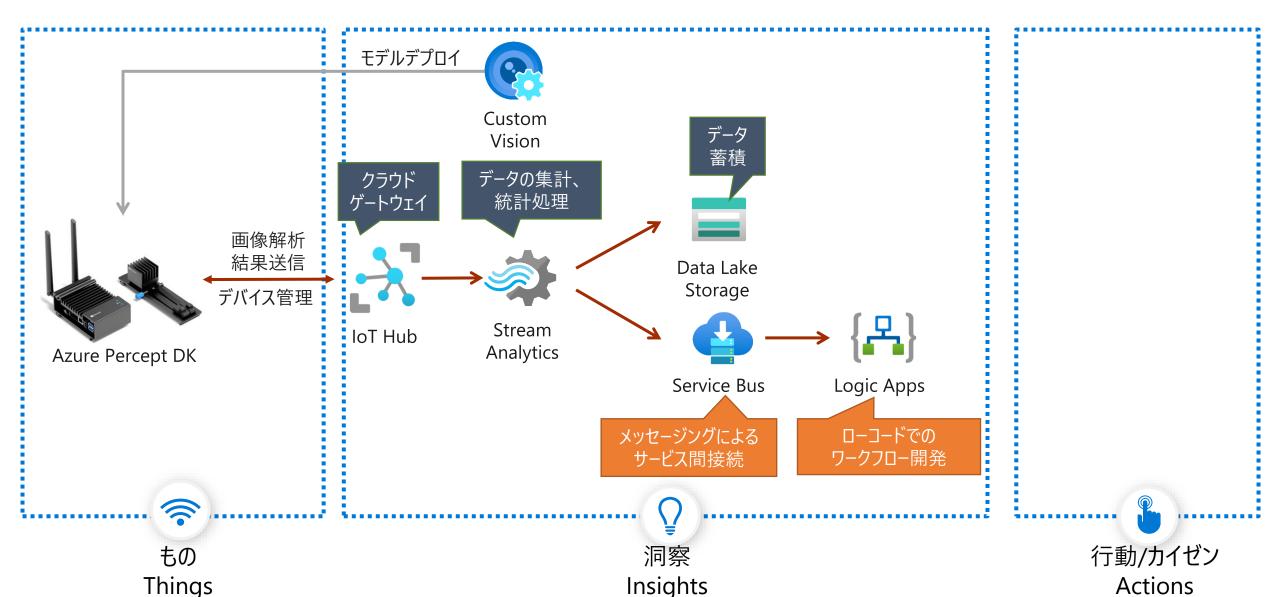
例:OCR





Step2: Azure 環境のセットアップ





Azure 環境のセットアップ

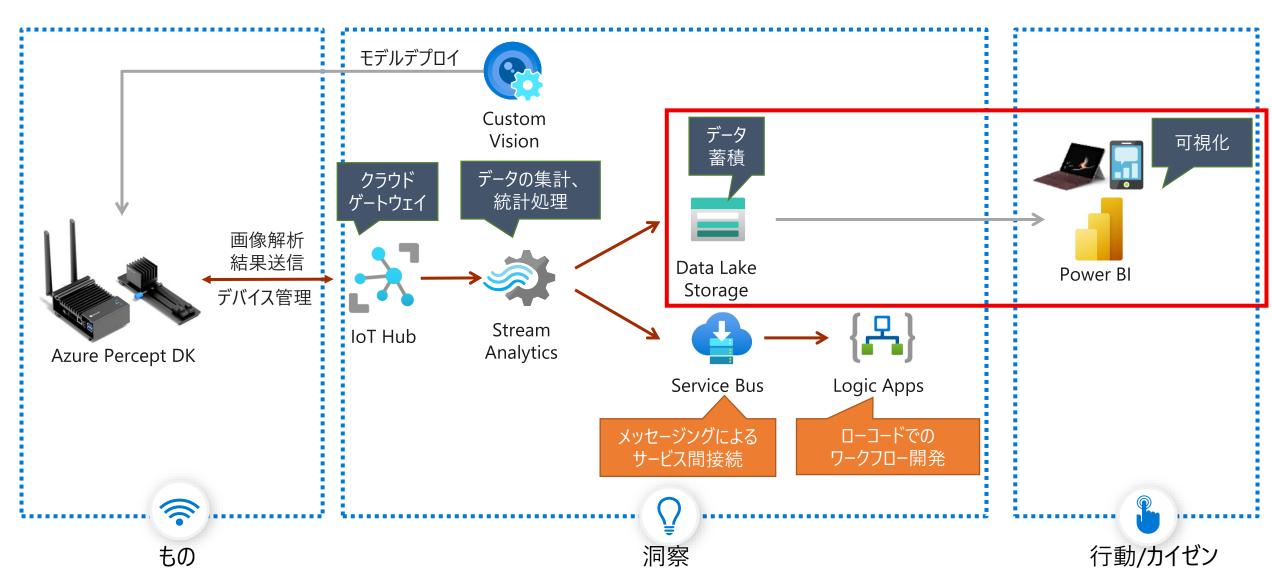
- ・ 以下リンク先の 🔼 Deploy to Azure をクリックし、Azure 関連リソースをデプロイします
 - <u>GitHub yahanda/hands-on-percept</u>

Step3: Power BI レポートの作成

Things



Actions



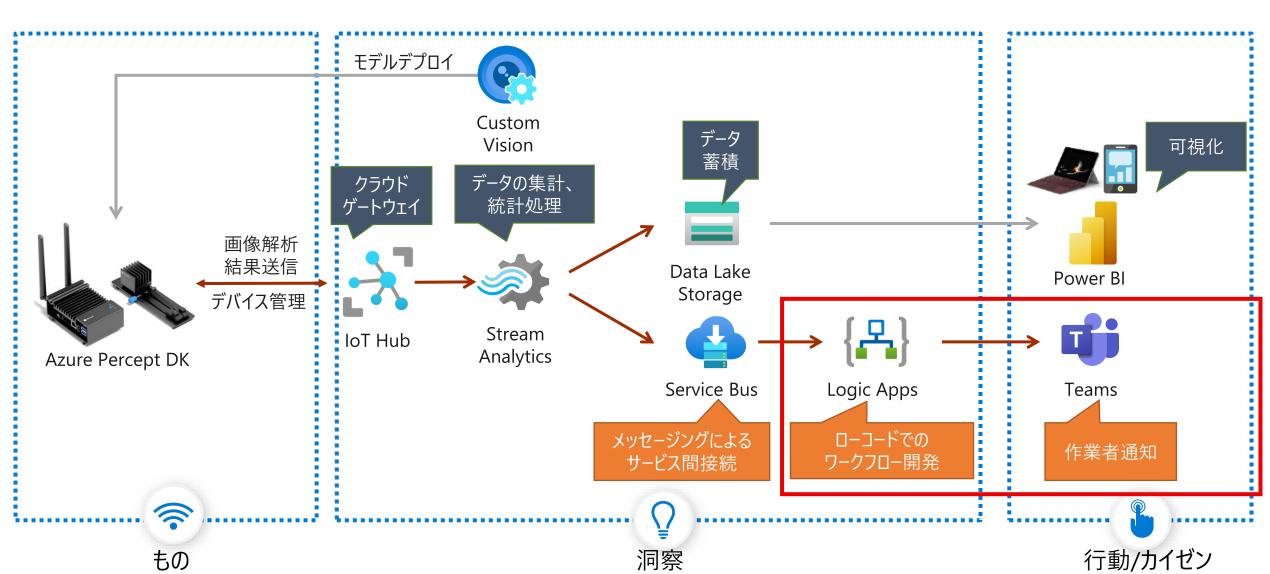
Insights

Step4: Teams アラートの実装

Things



Actions



Insights

Logic App のトリガーの構成

Logic Appの画面にて、以下の順でボタンを押下します。

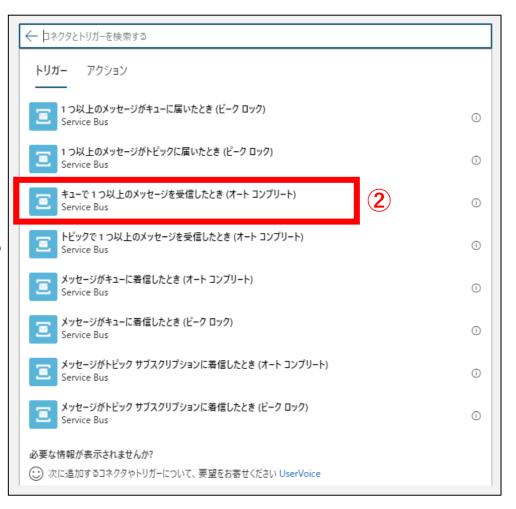
- 1 開発ツールにて[ロジック アプリ デザイナー]を選択
- ② テンプレートまで下へスクロールし、[空のロジック アプリ] を選択



Logic App のトリガーの構成

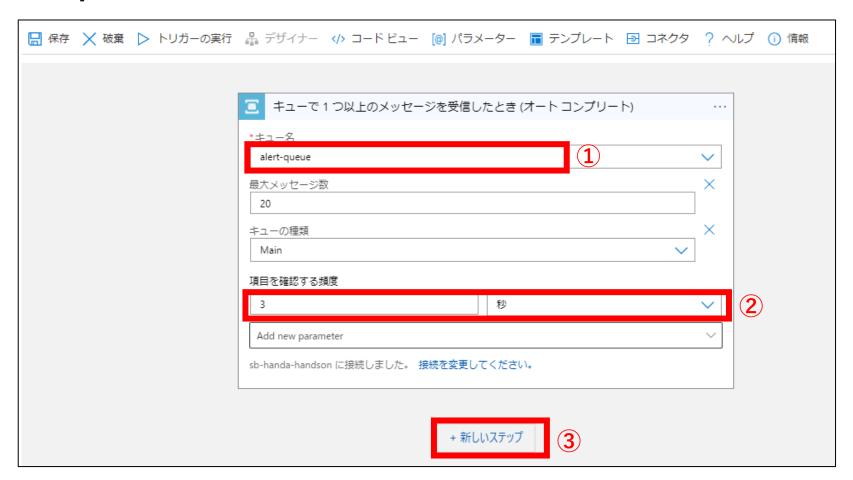
- ① [すべて] タブを選択して、[Service Bus]を選択
- ② [トリガー]で、[キューで1つ以上のメッセージを受信したとき (オート コンプリート)]を選択



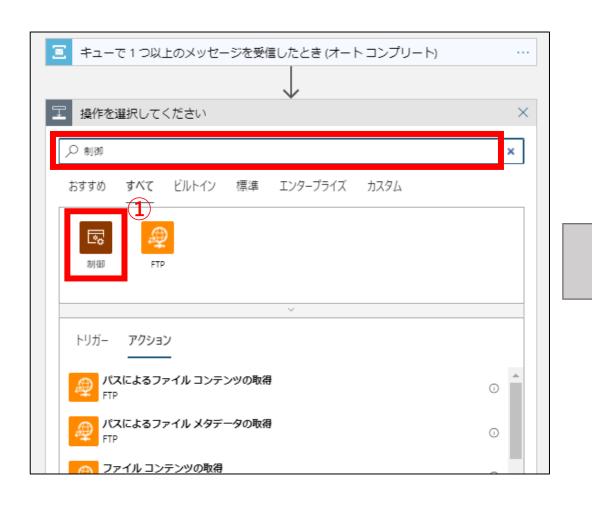


Logic App のトリガーの構成

- ① [キュー名] で、ドロップダウンから先の手順で作成したキューを選択
- ② [項目を確認する頻度] を3秒に設定
- ③ [+新しいステップ] を選択



- 1 [すべて] タブを選択して、検索ボックスに[制御]と入力し、[制御]を選択
- (2) [アクション]で、[条件]を選択





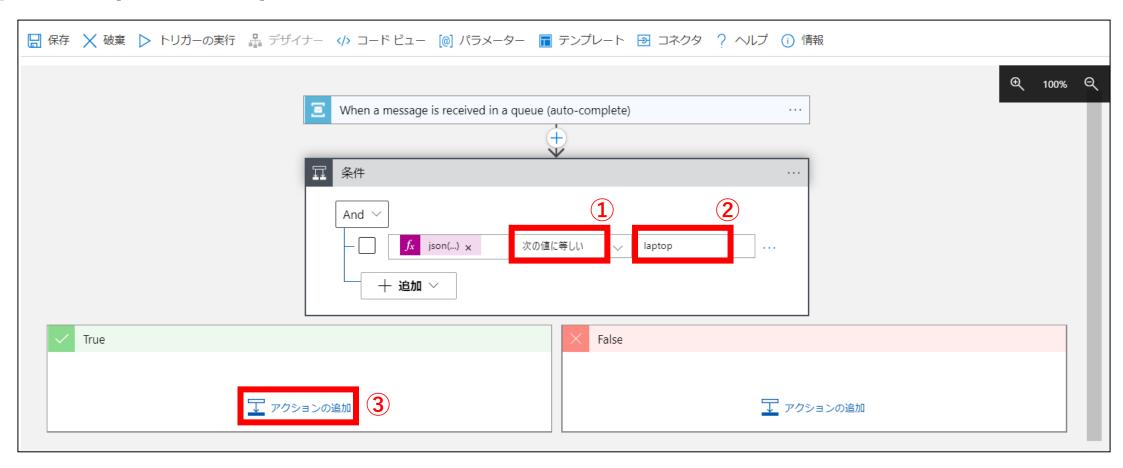
- 1 [条件] にて [値の選択] を選択
- ② [式] タブを選択して、以下式を入力 json(base64ToString(triggerBody()?['ContentData'])).label

③ [OK] を選択

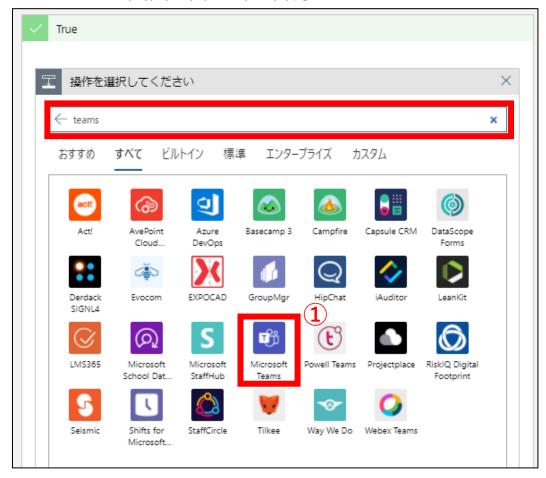
Stream Analyticsで出力した label を取得

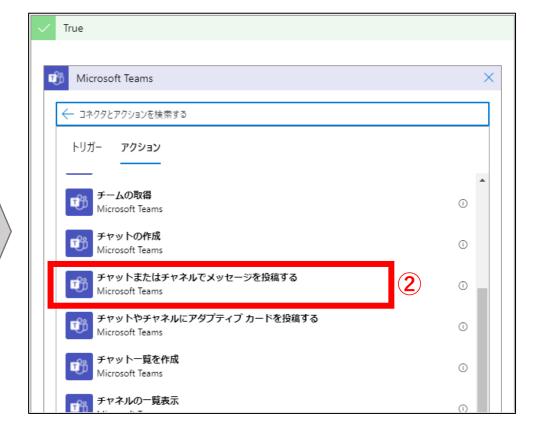


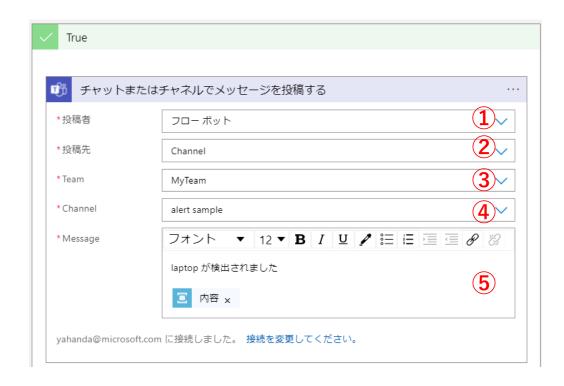
- 1 ドロップダウンより、[次の値に等しい]を選択
- ② 該当ラベル名(例: laptop)を入力 ※アラート上げる際のラベル名をここで指定しています。
- ③ True 内の [アクションの追加] を選択



- ① [すべて] タブを選択して、検索ボックスに[teams]と入力し、[Microsoft Teams]を選択
- ② [アクション]で、[チャットまたはチャネルでメッセージを投稿する]を選択
 - ※サインイン画面が出たら、ご自身のTeams ID にてサインインします







以下の項目を、適宜設定ください。

① 投稿者: [Flow bot] を選択

② 投稿先: [Channel] を選択

3 Team:

4 Channel:

Message:

※[動的なコンテンツの追加] > [内容] より Stream Analytics から送信されたメッセージのコンテンツが追加できます

[保存]を選択して、変更内容を保存

